

るだろう。

ところが OR の教科書には、1957 年以来 1972 年までの 15 年間に、どれだけの変化があったらうか。細部の進歩はもちろんあるにしても、工学の他の分野から導入された新しい技法なり、OR 界の中で生み出された新しい解法が、はたしてどれだけ追加されたらうか。

私がおそれているのは、時代は OR を必要としているのに、OR は今や保守的で、閉鎖的な世界になっていて、この要請にこたえられないのではないかということである。もしそれが事実だとすれば、OR は最盛期を迎えることなく、衰退に向かおうとしているのだろうか。

私は会員の方一人一人にきいてみたい。

1. OR は衰退に向かっているのか。
2. 1 が YES ならば、その対策は何か。

(X)

OR の 将 来——2

社内で OR 研究会を何人かの同好者とやっていた頃、感じたことがある。ききつたえて、研究会にはいたいといってくる人にどうも共通性があるということである。その印象は今日にいたっても変わっていない。一言でいえば“傍系の人”が多いということである。どこの職場でもその職場の主流の仕事というものがある。あるいは主流の仕事ではなくても、何人かの部下をまかされて、自分一人の裁量でどんどん仕事を進めている人たちがいる。これらの人たちを仮に“主流の人”と呼ぼう、このような人たちに対して“傍系の人”がいる。前時代的な企業ならば、このような人たちは、たとえば経営者陣とコネがないとか、学閥からはみ出ているとかいう理由の

人もいるかもしれない。しかし、ここではそのような企業は議論の対象からはずすことにする。そうすると、これらの“傍系の人”が傍系になった理由はすべて本人の責任であることがわかる。ある人は能力がない。ある人は能力はあるが、なぜか他の人といっしょに仕事ができない。別の人は、一人でなら仕事をやるが、部下をつけるとうまく仕事ができない。能力本位で仕事の与えられる企業では、このような人たちは主流に留まっていることができない。いつの間にか主流からはみ出して行く。第三者から見ていると、本人は、自分から望んで主流からはみ出して行こうと努力しているように見える。しかし本人はそのことを知らない。OR に近づいてくるのは、このような人が多いというのが私の印象であった。

その理由はいろいろあるのだろうが、このような人たちがもっている劣等感と自尊心に訴えるものを OR がもっているものと思われる。しかしこれは、OR にとっては不幸なことだ。

OR を実施する人に最も必要とされるのは交渉力であって、数学の知識でも、思いつきの豊かさでもない。逆に上記のような人々は OR に最も向いていない人たちだといえる。このような人たちが企業の中で OR を始めたならば、必ずその OR は失敗することが断言できる。

あなたの企業の OR 室は、“傍系の人”を一生懸命集めて、着々と OR 失敗のための素地をつくってはいないだろうか。企業の中ではディレッタントにすぎない“傍系の人”、アウトサイダー、ドロップアウトが、OR 専門家として通ってはいはしないだろうか。OR 衰退の一因がそこにありはしないか。

(Y)



第 20 回 TIMS 国際会議の開催と論文募集のおしらせ

期間：1973 年 6 月 24 日～29 日

場所：テル・アビブ（イスラエル）

主題：Management Science, Developing Countries and National Priorities

主催：TIMS イスラエル支部・イスラエル OR 学

会 (ORSIS)

日本 OR 学会からは森口繁一教授（東大）が日本のコーディネーターになっています。

論文は、経営科学の理論・応用にかかわるどのようなテーマのものでもよく、150 語以内、ダブルスペースにタイプした 3 部を、1972 年 12 月 31 日までに、下記宛直接送付してください。

Professor Uri Yechieli

Tel Aviv University, Department of
Statistics
Ramat Aviv, Tel Aviv, Israel

法人化に伴う会費納入に関する移行措置 のおしらせ

会員の皆さまには、すでにご存知のごとく、本学会は社団法人として正式に認可されましたが、これに伴い、前号でもおしらせしたように、初年度会費の納入につき、下記のように決定されておりますので、十分ご注意の上、納入くださるようお願いいたします。

記

47年度の会費は、47年9月末日までに納入してください。9月を過ぎても未納の方には、11月より会誌の発送が停止されます。12月を過ぎても未納の場合、会員資格が停止され、48年2月を過ぎても未納の場合は、会員資格を喪失することがあります。

なお、48年度の会費は、新学会の定款に従い、47年12月末日までに納入してください。12月を過ぎても未納の方には、48年1月より会誌の発送が停止されます。48年6月末日に至っても納入のない場合は、会員資格が停止され、12月を過ぎても未納の場合は、会員資格を喪失することがあります。

注：発送が停止された会誌は、会費が納入されしだい、発送されます。

46年度の会費未納者は、47年9月末日までに、納入してください。9月を過ぎても未納の方は、会員資格を喪失することがあります。

通常会員 学生会員 賛助会員

46年度 3,000円 1,500円 40,000円(一口)

47年度 3,600円 1,800円 50,000円(一口)

46年度未納者 納入期限 47年9月末

47年度会費 " " 9月末

48年度会費 " " 12月末

会 合 (47年4月～5月) (かっこ内は出席者数)

常務理事会 47.5.10 (14) 議題 1. 1972年度総会議案の件 2. 編集委員会規定の件 3. 学会誌配布規定の件 4. 研究部会の件 5. ISOの規準作成協力の件 6. 法人化記念事業の件 7. 第6回IFORS会議参加の件 8. コーポレート・プランニング視察団の件 9. 入退会の件 10. その他

評議員会 47.5.13 (15) 議題 1. 1972年度総

会議案の承認 2. 法人化記念事業の件 3. その他
IFORS・TIMS 準備委員会 47.4.6 (11); 47.5.10 (10)

大会準備委員会 47.4.11 (3)

研究普及委員会 47.4.12 (12); 47.5.26 (13)

会員増強委員会 47.4.17 (5); 47.5.9 (4);
47.5.23 (3)

IAOR 委員会 47.4.21 (8)

大会実行委員会 47.5.10 (6)

広告委員会 47.5.11 (5)

刊行物委員会 47.5.23 (6)

OR金曜サロン 47.4.7 (10) “システムとOR”;
47.5.26 (8) “題名のない放談会”

研究普及幹事会 47.4.5 (6); 47.5.26 (6)

庶務幹事会 47.4.19 (5)

刊行物幹事会 47.4.21 (8); 47.5.19 (6)

入退会 (47年3月28日より47年5月9日まで・
5月10日第7回理事会にて承認)

入 会

[通常会員]

安藤二郎(東北工大)・大原義郎(名古屋大)・産田啓昭(松下通信工業)・奥村一博(住友銀行)・上田昇(住友電工)・亀井一夫(製鉄化学工業)・小林孝(富士通)・高木猷造(ジャステック)・永井達也(大成建設)・福島 宏(野村電子計算センター)・福良博史(日本能率協会)・藤野和健(東大)・丸田 稔(防衛庁)・三浦良一(北大)・森田道寛(三井銀行)・江幡祐一(大成建設)・保柳 武(日本精工)・東郷安正(日本電気) (以上18名)

[学生会員]

磯村栄治(東大)・岩丸良明(慶大)・太田敏澄(東工大)・古山正雄(東大)・蒲田恭平(京大)・穴戸栄徳(京大)・前田節雄(近畿大) (以上7名)

[賛助会員]

ゼネラル石油株式会社・愛知県警察本部

(以上2社)

退 会

[通常会員]

木田経吉・中山陽一・山岡 斉・露木 朗・千野孝・遠藤為治郎 (以上6名)

[賛助会員]

興亜石油(株)・富士通ファコム(株)(大阪)・中部日本放送(株)・(株)中日新聞社 (以上4社)